資料６－３

知床五湖地上遊歩道での環境整備について

1. 背景

知床五湖地上遊歩道では、ヒグマの目撃増加やヒグマとの危険事例の発生が顕在化しており、安全性の観点から、ヒグマとの遭遇機会の低減や遭遇時の精度の高い情報共有等を目的とした環境整備が求められている。第 46,47 回のあり方協議会では、利用適正化計画で定める項目以外の安全対策として、地点標識の設置及び見通しの悪い地点の笹刈りが提案されたところである。今般、当該提案に新たな対策加え、令和 8 年度以降の地上遊歩道のヒグマ対策に向けた環境整備の取り組みを下記の通りまとめた。

2. 笹刈り等による遊歩道上の見通しの確保（自然公園財団）

笹刈り等の範囲は全区間（大ループ・小ループ・木道接続部）とし、見通しの悪い地点・箇所で重点的に実施する。また、専門家の意見を聞きながら、植生等に配慮して実施する。

下記記載の実施回数以外にも、関係機関（ガイド事業者や FH 等）との情報共有を図りながら、引き続き必要に応じて笹刈り等の作業を実施する。

	回数（最低限）	備考
開園～5 月	１回	雪解け後に実施
６月	１回	遊歩道の点検や清掃（ごみの回収）を合わせて実施
７月	２回	入口付近の笹の繁茂が顕著であり注視する
８月	２回	植生保護期へ切り替わり、利用者への声掛けや作業中の安全確保により注意を払う。
９月	１回	遊歩道の点検や清掃（ごみの回収）を合わせて実施
10 月	１回	遊歩道の点検や清掃（ごみの回収）を合わせて実施

3. 春季の除雪及び除雪に伴う遊歩道上の見通しの確保（北海道）

・春季の除雪の状況

シーズン前研修（第２回）の日程に合わせて小ループの除雪を実施

・除雪に伴う遊歩道の見通し

積雪が多い年は、上記日程の他に予備日を設けて再度の除雪を実施

（最小限、小ループを開ける）

積雪が少ない年は、人為的な除雪を実施せず自然の状態で開園する。

（地上遊歩道を点検の上、必要に応じて笹苅等を実施）

4. 遊歩道上への注意標識設置の試行（環境省）

ヒグマの出没しやすい地点（及び遭遇時に危険事例となりやすい地点）については、レクチャーでの地図や口頭での説明となってしまい、利用者に現実味を持った情報が伝わらないことが課題となっている。こういった課題を踏まえて、来年度以降は、季節や状況に応じた、地上湯歩道脇への一時的なヒグマの注意喚起標識の設置を試行する。また当該標識の設置時には、口頭レクチャーでの紹介も行うことを想定する。

標識の設置図及びレイアウト図は図１,２参照。

例）昨年の８月にはＭ～Ｏ間のミズバショウ帯でのヒグマの目撃や痕跡の確認が相次いだため、ヒグマの活動が収まるまで、Ｍ地点手前に注意喚起看板を設置した。

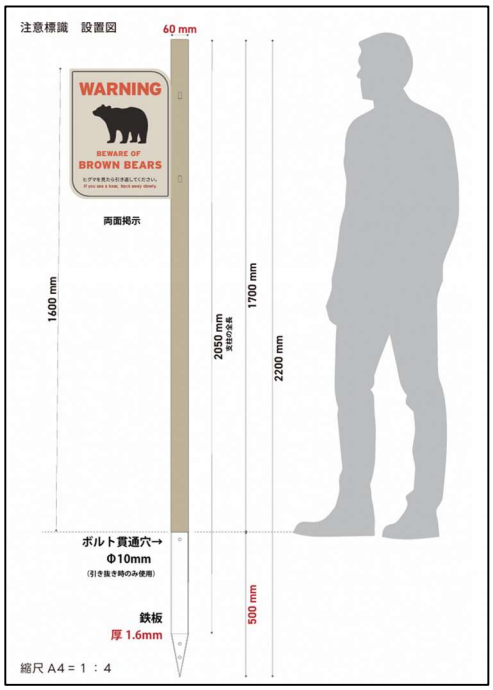

図 1 注意看板設置図

図 2 注意看板レイアウト図

5. 遊歩道上への地点標識の設置（環境省）

ヒグマとの遭遇時の位置の特定を確実に早く行うことを目的に、地上遊歩道の各地点（A～S、α～γ）に、アルファベットと緊急時の連絡先等を記載した標識を来年度に設置する予定。日本語話者に限らずヒグマに遭遇した利用者からの聞き取りがスムーズになり、管理者を始めとする園地関係者や調査スタッフへの精度の高い情報共有に繋がると考えられる。

標識の設置図、レイアウト図及び設置位置は図３～５参照。

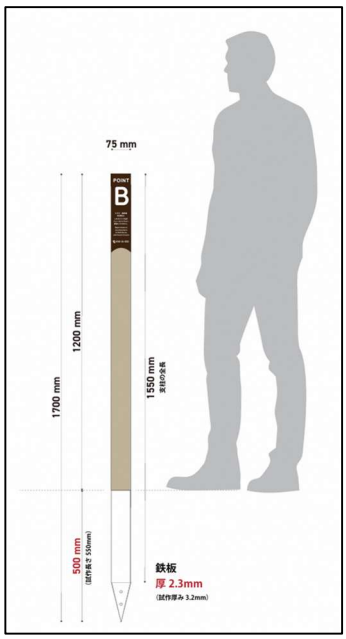

図 3 地点標識設置図

図 4 地点標識レイアウト図

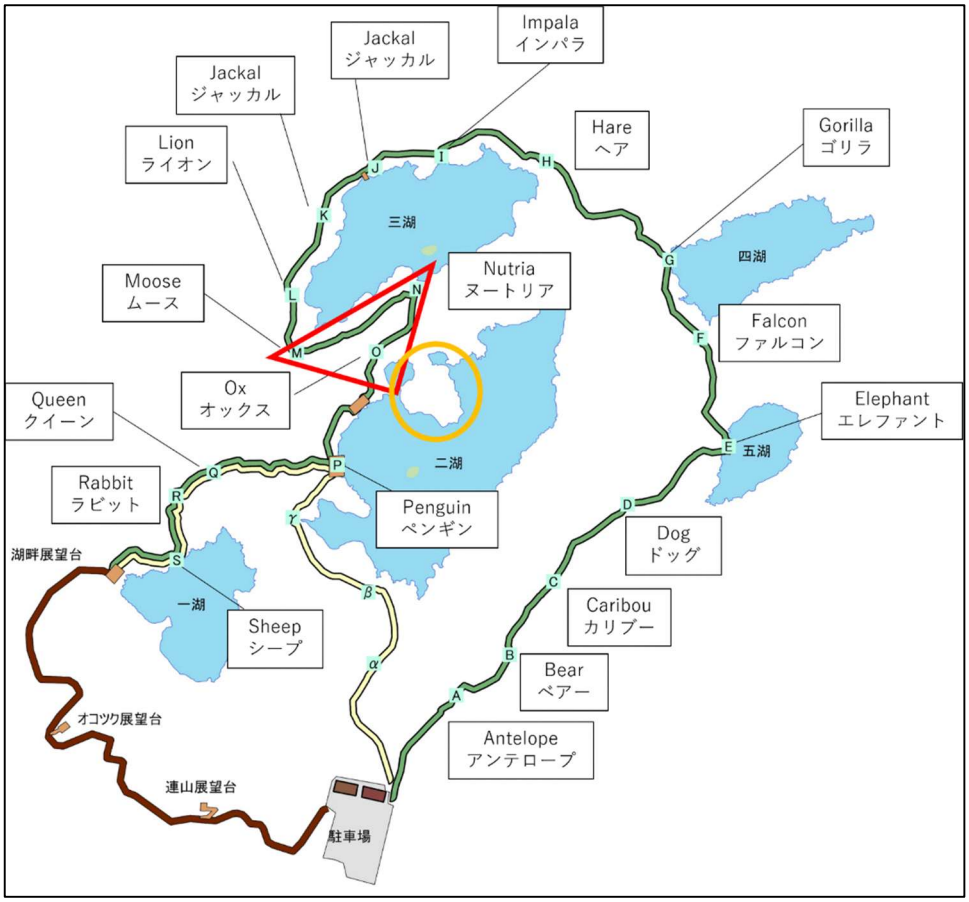

図 5 知床地上遊歩道の地点名